

【開催レポート】アヤセ未来会議 第4回を開催しました！

作成：株式会社エンパブリック

○開催日時 令和5年1月28日（土）13：30～16：00

○会場 オーエス東京ビル5階

第4回では「アクションの未来を考えよう」をテーマとして、アヤセ未来会議の中で動き始めたアクションが綾瀬のどんな未来につながっていくのか？を全員で考えていきました。

前回と同様に、公募により選ばれた綾瀬地区とその近隣にお住いの18名（ゲスト含む）の方にご参加いただきました。



【1】導入・挨拶

最初に全体ファシリテーターの広石（株式会社エンパブリック）から第4回の進め方について説明しました。

- ・第3回でやってみたいアクションアイデアでチームを組んでから、今日までフリーコーヒーの実施、チームの話し合い、実際に動いている人にインタビューなどをした人もいます。
- ・アイデアを出したり、動いたりしてみたことで、未来会議が始まった時と比べて綾瀬のまちのことやテーマが見えてきたはず。
- ・第4回では、自分のアクションが広がった先にある「こういう綾瀬の街になったらいいな」という未来像を描く。綾瀬のまちがもっとよくなるには？必要なことは？動いたことでより深い未来像を描いていくことができる。
- ・まずは、小さな動きではあるけれど、やってみたことを振り返ってみる。どんなことを考えたかを言語化し、実際に動いてみて感じたことを共有してみしてほしい。



【2】各グループの状況確認

現在、アヤセ未来会議では、5つのプロジェクトが動き出しています。

この時間では活動グループに分かれて、これまでの活動の進捗状況の確認をしました。

《活動振り返りの一例》

<あやせのしみじみ会>では、実際にフリーコーヒーを実施したことについて振り返りました。

皆さんからは、自分の普段の生活では出会えない色々な人と会話できたのが良かったとの感想が出ていました。

一方で、改善点としては、「外から見たら何をしているかわからない」「混んでいてあまりしゃべれず消化不良だった」等の意見が挙げられました。



メンバーの「フリーコーヒーをやってみたい！」からはじまったこの企画。まちの人々がつながるきっかけとしての可能性を感じつつ、場のつくり方やみせ方はより工夫ができそうだと前向きな話し合いが行われていました。

《他チームの振り返りの様子》

他チームでは、イベントを開催する場所選びに際して綾瀬地区の昔の地図と今の地図を比較してみたという話や、実際に一度インスタグラムのアカウントを作成してみようという話に展開したチームまで、それぞれ自分たちのペースで活動を進めていました。



【3】グループ間で考えたこと・情報共有

次に、グループごとに分かれていた座席を一旦離れ、各グループのメンバーが混ざった状態でテーブルにつき、それぞれの進捗状況を報告・活動の共有をしました。

あるテーブルでは、＜あやせのインプロ部（以下インプロ部）＞の活動報告に全員の興味が集中しました。

インプロ部のメンバーは、実際に自分たちで参加した、企業主催の成人向けのインプロ（即興劇）の体験を共有しました。

自己紹介をしない、お互いを否定しないなど、いくつかのルールがあり、心理的安全性が担保された状態でロールプレイをするそうです。ポジティブな返答しかできない状態を体験することで、自然にコミュニケーションが良くなっていくことを感じたとのこと。

演劇体験を増やしたい！という思いからスタートしたこのグループですが、実際にプログラムとして行っているインプロを体験したことで、コミュニケーション活性化の手段の一つとしてのインプロの可能性を見出しました。



【4】全体共有

ここでは、グループごとにこれまでの活動状況や今日のグループトークで考えたことを口頭で共有しました。

<あやせ街歩きマップ>

- ・インスタで「綾瀬街歩きマップ」を作りたいと考えている。
- ・ハッシュタグをつけて掲載。飲食店に限らず、いいスポットがあれば投稿する。
- ・メンバーにワイン専門店を営んでいる人がいるので、将来的には、リポストしてくれた人に「素敵なおワインプレゼント」ということをやってみるのもよい。



<あやせのしみじみ会>

- ・フリーコーヒースタンドを実際にやってみました。場所はあやせのえんがわ。
- ・多くの人が集まり、特に通りすがりの親子が参加してくれたのがよかった。ただ、外から見て人の中には何をしているかが分かりづらい、入りづらい感があり、改善が必要。
- ・コーヒー抽出後の豆かすを再利用できないか？という話も出た。



<あやせの縁日>

- ・縁日をするには東綾瀬公園だと広すぎるので、小さめの蛭沼公園が良いのでは、との案が出ている。
- ・一方で、歴史があり、春になれば桜も綺麗なせっかくの良い公園なのに、名前で少しマイナスイメージがついてしまいそうなのが惜しいという話にもなった。



<インプロ部>

- ・株式会社フィアレスの社会人向けインプロを体験した。人と人を繋いでいくような、信頼力、コミュニケーション力、団結力、などを試されているような体験だった。
- ・ゲームをしている感覚で、みんなで仲良くなり、チームの絆が生まれる感じがした。
- ・大きくアクションをする前に、一度このメンバーでもやってみたいと思った。



<あやせプロモーション部>

- ・オンラインでチームの MTG を実施した。
- ・綾瀬の情報を知りたい人が、アクセスできる綾瀬に特化した情報の一括化をしたい。
- ・あるメンバーが社内ラジオをやっていて、そこで企業の理念を伝えているということ。“足立区をどうしていきたいか”を区民の人に伝えていくことと通じると感じた。
- ・まちを使った謎解き企画も綾瀬の周知イベントの参考になりそう。



【5】足立区 SDGs 未来都市の進捗共有（足立区）

足立区政策経営部 SDG s 未来都市推進担当課 伊東課長からも足立区 SDGs 未来都市の動きについて共有がありました。

- ・「ことりっぷ 綾瀬」の配布版2万部を作成中（5月配布予定）
- ・特設サイトも制作中。アヤセ未来会議の名前が入る予定なので、皆さんの活動の情報発信をしていきたい。
- ・「足立区SDG s 未来都市及び自治体SDG s モデル事業推進ロゴ」ができた。一つひとつの枠をパレットに見立て、住民の皆さんが自らの色を作っていくことができる区のイメージを作った。



【6】ソンミサン・マウルでのモデルケースの紹介（広石）

ここで講師の広石から、住民が自分の「やりたいこと」「やってみたいこと」をまち全体で形にしている「ソンミサン・マウル」の事例と、この事例から学べることが紹介されました。

ソンミサン・マウルとは、ソウル中心部の麻浦区に位置する地域。約 15 年前、25 世帯の若い親たちがお金を出しあい、自分たちの共同育児施設をつくることにした。そこから生まれたコミュニティーは、現在、70 以上の事業が生まれ、5700 世帯が参加する「まち」へと成長した。

（参考書籍：<https://empublic.jp/books/>）

《ソンミサン・マウルから学べること》

① 「自分達にとって必要、だから自分達でつくる」

ここに住む人々は「まちづくり」はしていない。それぞれの豊かな生活のために必要なものを、共に力を出し合ってつくり、運営している。
それが、「まちを生きる」ということ。

② 「参加者が納得できるまで徹底的に話し合う」

ソンミサン・マウルでも意見の食い違いからのトラブルは頻発する。でも、そこできちんと話し合いをすることが、コミュニティーを進展させてきた原動力だということを共有している。

③ 「仲間とのリスクは楽しい」

ソンミサン・マウルの場合は少しずつみんなで出資するからこそ面白い。自分が出資したプロジェクトが潰れると困るからみんな主体的に考えるし、それが楽しいと思えている。

《「やってみたい」が形になる綾瀬のまちへ》

“こんなことしてみたい”から始まって、やってみようとする、トラブルや壁があります。地域活動は大変なこともたくさんあります。

でも、自分達が動いて、みんなで考えて、知恵やノウハウが溜まっていけば、次やってみたいと思える人たちがどんどんやりやすくなっていきます。どこかのチームで考えたことが、他のチームにも活用できますし、基盤ができるとどんどん進んでいきます。

綾瀬で、そんな活動の知恵やノウハウ、人のつながりのベースを作るというのが、アヤセ未来会議であってほしいと思います。

また、誰かに押し付けられるのではなく、まず好きなこと、できそうなことをやってみると、そこから出てくるものがあります。

最初に動き始める人が、“出る杭は打たれる”となる場合、たいていは周りがただ見ているだけの状態です。しかし、そこに「それいいね!」「一緒に考えるよ!」という人が続けば出る杭になりません。

最終的に「綾瀬って、やってみたいこと、新しいことにみんなが協力してくれる街だよね」となるのは、それも SDGs なまちの形なのではないでしょうか？



【7】グループワーク「アクションのアウトカム（波及効果）を考えよう」

こんな綾瀬ができるよというイメージを言語化しておく、活動を誰かに伝えるときに役立ちます。

私たちだったらこうやりますというイメージを話し合ってシートに記入しました。



■ 懇親会の開催（1～1.5 H）

会の後には、参加者の発案で懇親会が開催されました。

一人ひとりが飲み物やお菓子を持ち寄り、それぞれの取り組みの共有や雑談を自由に交わしていく時間を通して、チームを超えた交流がさらに広がりました。

○ まとめ

このアヤセ未来会議では、“自分がやってみたいこと”が出発点です。

もちろん最初に実現できることは小さく、理想には遠く、反省点も多いかもしれませんが、そこには能動的でポジティブなエネルギーがあり、自分の役割を果たすことで生まれる充実感があります。

目標達成のためのやるべき行動を最短距離で定めるビジネス的な進み方ではない活動は一見遠回りのように思われがちですが、皆さんのお話を聞いていると、自分のできることから動いてみることで、次第に理想が具体化されていくのだなと感じました。



当日はかわいいゲストもいらっしゃいました。